

ぐ どう

# 弘道

伝えて下さい、  
三つの心を

「伝えて下さい、み仏を敬う心を」  
「伝えて下さい、ご先祖を大切にすることを」  
「伝えて下さい、お寺参りの心を」

—埼玉県檀信徒協議会—

平成18年9月4日・5日、埼玉県宗務所が当番となって平成18年度北関東教区檀信徒研修道場が本山堀之内妙法寺において開催され、檀信徒32名が研鑽に励まれました。

青年会主催の七面山登詣修行は、9月11日・12日、時折激しい雨が降る天候でしたが、僧侶・檀信徒あわせて約60名が参加されました。

また10月2～4日には、宗務所主催の平成18年度護法団参統一信行会が行われ、110名が参加され佐渡の霊蹟を参拝すると共に親睦を深めることができました。

身と心を磨く尊いご修行に参加なされた方による「信仰体験記」を特集いたしましたので、皆さま方の信行の励みとして頂きたく存じます。

## 檀信徒研修道場

「仏道へのいざない」

九月四日五日の一泊二日にて杉並区堀之内妙法寺に於いて少子高齢化社会の中で法華信仰を子供や孫に、また未信徒にわかりやすく伝えるため「伝える」をテーマに開催されました。菩提寺の甘楽上人の奨めもあり、信行会の参加者七名が参加しました。栗橋駅で待ち合わせ湘南ラインで新宿駅へ、車中若者が全員席を譲ってくれました。東高円寺駅で下車し蚤糸公園の涼しい木立の中をあるいて妙法寺へ着き休憩所で昼食にしました。受付のち、本堂で開講式（右下写真）、祖師堂でご開帳、説明を頂き乍ら、諸堂を参拝、都文化財「御成の間」国指定重要文化財「鉄門」を拝観、祖師堂前で記念撮影をしました。本堂に移り高座説教では「お祖師様のご法難」を拝聴し休憩した時は薄暗くなっていました。環七通りの近くにあっても妙法寺さまは、高い木立が多くあり涼しい風が通り抜けます。初秋を感じる虫の声と静寂に包まれたなか唱題行が行われました。電灯を



消しご宝前のローソクの明りで作法によって精神を統一し、木鉦と大太鼓に合わせ、お題目を一心にお唱えしました。三班に分かれての法座では「伝える」をテーマに話し合わせ、世代、立場の違いでの難しさと大切さ、伝えられ習慣になったときの喜びを知りました。二日目、清々しい空気に包まれ凛とした祖師堂で朝勤が行われ四十年近く参詣してありますが参列出来るのは初めてで有難さで一杯です。妙法寺の祖師像は日蓮聖人が遭われた伊豆法難の折、弟子の日朗さまが鎌倉由比ガ浜に流れ着いた霊木に師の姿を彫って日夜礼拝しお給仕していたところ、

祈りが通じて三年ののち大聖人がお帰りになり自らこの彫像に開眼して授けられた類まれな手の拳ほどのご尊像がお腹籠りとして安置され、あらゆる災難除けに靈験あらたかなことから「厄除け祖師」として有名でたくさんのお経が上げられます。朝食後「御成の間」にて妙法寺貫首嶋田日新親下より御経頂戴の儀がありました。関根所長から「御成の間」と書院庭園の説明がありました。「釈尊の言葉と日蓮聖人」と題した仏伝講義（下写真）では大変わかり易い資料でお話しくれました。続いて「写経」についてのお話があり「自我偈」の書写を行いました。閉校式では関根所長を導師に法味言上が行われるなか「写経」が納経がなされました。関根所長より各人に修了証とお札が手渡され、ご挨拶で梅檀林の歩みと以前僧侶の勉強の道場でしたが現在一般の方の勉強の場ともなっていますと話され、此の研修道場修了者は身延で行われる中央檀信徒研修道場に参加出来ます。どうぞそちらにも参加してくださいと結ばれました。最後に、三枝上人の「皆にありがとう」で閉会され、納経

が戻され終了しました。お年寄りに優しい妙法寺は随所に椅子が用意され、若いお上人方の親切なお世話をいただき、二日間の日程を無事終えました。栗橋町常薫寺檀徒

坂本 房子 さん



「私の誓い」

菩提寺の三枝上人より檀信徒研修道場のお話を賜り、私自身がこのような研修を体験したことがございませんでしたので、参加させて頂きました。日蓮大聖人が説かれた教えを七百五十年もの長い間、今日まで伝えて

こらえた僧侶、そして信じ続けてこられた檀信徒の方々。それだけ日蓮大聖人のお力が偉大であることを知ることができました。今後百年、二百年と法華經の教えを次世代に伝えて行くために、檀信徒一人一人、その教えを守り生きていかなばならぬと思います。

お説教の中で印象に残った言葉が「一人に尽くす」でした。難しいことではありますが、常にその心を持ちながら今回の研修道場で感じたことを忘れずに、日々精進して行きたいと思えます。八潮市妙光寺檀徒

柴 健治 さん

「信仰の入り口」

私は「馬場の妙光寺」と呼ばれるお寺に生まれました。現在二十八歳になります。寺の娘といえは大層信仰篤く育ったのだろうと思われてお恥ずかしいのですが、私が宗門のこうした行事に出させて頂くのはほぼ初めてのことで、今回私と同年代で総代さんのご子息でもある柴さんが一緒に参加くださり、大変心強く研修道場に臨むことができました。

実は、昨年祖母が亡くなるまで、私にとって寺の暮らしは、空気のようにごく当たり前に存在する日常でございました。ですが、初めて経験する家族の葬儀という場で、お寺を通して祖母に縁ある多くの方々にお話を伺い、私自身も寺に生まれたことの縁の深さに思い至りました。

このたびの研修道場では、そのような仏縁により、今まで日常に絶えず聞こえていたお経の意味や、ご本堂に常に座していらっしゃる日蓮聖人のご思想により深く触れる事ができたと感じています。ご指導下さったご教師の方々をはじめ、熱意をもって法華經を信仰されている多くの信徒の皆様と一緒できたことは、私の大きな心の糧となりました。ようやく信仰の入り口にたどり着いたばかりでございますが、寺族としての役目を果たせるよう日々精進したいと思えます。

八潮市妙光寺寺族

三枝 あいか さん

## 「尊いご縁に報いる

## 生き方を目指して」

さるすべりの色鮮やかなる九月、北関東教区檀信徒研修道場に参加させて頂きました。

荘厳なる厄除け祖師・本山堀之内妙法寺の祖師堂でのご開帳にてお祖師さまに親しくまみえ、本当に有難く感動いたしました次第であります。この興奮冷めやらぬままに諸堂参拝を終え、石川教道上人による祖伝講義「お祖師さまのご法難」を受講いたしました。

講義で、今回の研修の大きな目的は、お題目を唱え親の思いを子供から孫に伝える義務があるとお話なされました。石川上人は、さまざまな事件やたとえ話を通し、私たちにお題目を唱えると辛いことが自ずと見え、その辛いことの中に教えがあることをご教示頂きました。一同は約五十分間、物音一つさせず聴き入り、日蓮大聖人がぐっと近くなられたように感じ更なる信仰に精進すべく決意をあらたにいたしました。

参加者に好評であった、唱題行（下写真）では、大聖人の教えである、心正しく身正しくすれば仏性が顕われ、心・口・意

に受持する唱題行の心構えをご教授頂きました。この唱題行の感動は今も忘れることができません。

あたりは夏の夕刻とはいえ僅かな木漏れ日で薄暗い静寂の中、木鉦と大太鼓の音が絶妙な音律を奏で、我々研修者の唱える南無妙法蓮華経のお題目も徐々にヒートアップして力強いものとなり、木鉦・太鼓・唱題の声が一音響となり、お堂をゆるがし、特に水銀灯が消えてからは黙座瞑想。まさに唱題三昧の境地に近づいた感じがいたしました。やがて点灯し明るさが戻ると心の安らぎが無我の境地と申しましようか、これがお祖師さまの功德なのかと有難く実感したのであります。



また特筆すべきは、各班ごとに分かれてお上人方の司会で進められた「法座」（下写真）であります。各部屋で、各自の自己紹介に続き布教方針「伝える」をテーマに少子高齢化社会の中で次世代への信仰の継承は如何にあるべきかが実に活発に発表なされました。私は、我が家の孫が特別に教えたわけでもないのに、「親の背中では育つ」の諺のように、自然に仏壇のリンを叩き腰を「く」の字に曲げて紅葉のような小さな手で合掌する姿をご紹介させて頂きました。

実はこれ以外にも、一泊二日の日程のすべてにおいてそれぞれの修行や食事作法に至るまで、諸上人方のきめ細やかなるご指導とご配慮を随所に感ずることが出来ましたことは筆舌に尽くすことができないほど感じ本当に充実した研修でございました。私自身、この尊い研修を通し、今後ますます法華経を信仰し精進する誓願の思いを抱いております。そして我が命を仏に奉り、お釈迦さまの功德を頂き、人の幸せは人と人との出会い、人と仏の教えとの出会いから始まることを深く感じております。殊に、唱題行などを通じ各寺の檀

家が結集して行い、その輪を全国的に展開することにより信仰の輪が広がると信じて疑いません。

結びに、会場であります妙法寺貫首嶋田日新親下をはじめご本山関係各聖、当研修道場ご指導の諸上人方関係者皆さまに心より感謝申し上げます。そして、この道場へのお導きをして下さった菩提寺川越妙昌寺の沼田正順住職、副住職沼田洋順上人に厚く御礼申し上げ、このご恩に報いるよう微力ながら尽力する所存でございます。

川越市妙昌寺檀信徒  
時田 敏夫 さん



「母の魂と一緒に」

出発の朝、雷鳴で目が覚め、また雨かと気持ちの重い朝でした。

それもそのはず、十年ほど前に初めて七面山に行った時、台風之余波で滝が流れ落ちるような山道を登った経験思い出したからです。

体力的にも前回より全くという程自信がなく参加申し込みをしたことに悔いる思いもありました。しかし一度決意したことだから何が何でも行かせて頂こう、いつもお世話になっている七面さまだから守って下さるはずと心に信じ、お蔭様で何とか帰山することが出来ました。実は私の家には昔から守り神として七面さまがあり、二百年ほど前の文政年間に災難除けとしてお祀りしたと聞かされております。今回は奥の院も初めて参拝すること出来、また母親がこの七月に八十九歳で亡くなり七日法要も終わったばかりの中ですが、お陰様で家族全員のご祈願も済ませて頂き、母への少しばかりの供養が出来たような気がいたします。最後に石黒上人のご実家の神力坊にも立ち寄らせて頂き、ところてんをご馳

七面山登詣修行



走になったこともよき思い出となりました。  
川口市実相寺檀徒  
大久保 俊三 さん

「貴重な体験」

法華経の聖地として名高い七面山の登詣修行に今回初参加となりました。私自身、体力不足で途中棄権はしないかと不安もありました。

登詣当日あいにくの天候でしたが、一行は七面山へと出発しました。途中身延山久遠寺に寄り、静まり返った寺院にてお経を唱えました。登山口に到着し、青年会の皆さんの先導で登詣が始まりました。時間が経つにつれて足が棒になり、途中列から遅れることもありましたが、やっとの思いで頂上付近に到着し、そこで雲の合間からの富士山の眺めはすばらしかったです。敬慎院で厳粛な面持ちでお題目を唱え、精進料理を頂きました。敬慎院で特に印象深かったのが巻き布団です。布団がずれるたびに目がさめました。とても貴重な体験ができました。川口市感應寺檀徒

岩田 義孝 さん

護法団参

「お祖師さまに

見守られて」

此度の、護法団参、統一信行会が実施されました佐渡の地は、私としては、三回目の団参となりました。前回は、埼玉県和讃奉詠会団参で、今は亡き主人と一緒に根本寺さまで和讃奉詠をさせて頂き、忘れることのできない思い出の旅でした。

二日当日、出発の時より降り続いた雨も両津港に着いた頃は止んで、最初の参拝です。世界一の宗祖日蓮大聖人さまの銅像に感動し、南無妙法蓮華經

翌日三日はさわやかな晴天に恵まれ、妙宣寺さまでの、ご開帳、ご法要です。御祖師さまに見守られて異体同心、一心に唱えたお題目にただただ、もったいない、ありがたく、感謝の気持ちでいっぱいでした。

そして佐渡歴史伝説館入館見学し、おいしい昼食をいただき、根本寺さまへ、ご開帳、参拝、秋風にゆれるコスモスの花や、銀色に輝くスキの穂、青い海、佐渡の風景に見も心も癒されました。お陰様ですばらしい旅を

させて頂き心より御礼申し上げます。

私事、ただいま八十一才です。護法団参、統一信行会には、初回より参加させて頂いてます。又、来年も参加できますよう願いつつ、微力ではございますが、子や孫に信仰の大切さを伝えることを使命とし、これからお題目信仰に精進いたします。

宗務所長さまはじめ各お上人さま、大変お世話になりました。葛蒲町妙福寺檀徒

加藤 房子 さん



「さらなる結束と

奈展を願って」

このたび、景勝地である佐渡の護法団参に昨年に続いて二回目の参加をしました。佐渡ヶ島は、寺院仏閣の多い島であり、佐渡市全体が行政でも、商工業も本州と何らかの係わり合いを持っていきます。そして一番である、観光を求めて、佐渡ヶ島を

全国から訪れる旅行者も多くいます。その美しさと、観光・文化・芸術・信仰心の向上に十分満足が得られました。平成十八年度護法団参統一信行会が、十月三日阿仏房妙宣寺で行われ厳肅なご法要に折りも深めることが出来ました。第二日目の、妙宣寺の貫首さまからの法話で日蓮大聖人の佐渡ヶ島での厳しい日常生活の修行のお話を聞き、ために、日々の心構えと、それを実行する信念が必要であることと痛感いたしました。合掌から始まり、護法団参参加者全員で御題目を中心として、厳修され意義深いものがありました。初日早朝より、県内からバスでの移動という旅程でありましたが、引率のお上人の適切なるご指導のもと各寺院檀信徒百数十名により、護法団参を有意義のうち無事事故もなく終了でき感無量の思いです。宿泊先のホテル大佐渡では、佐渡おけさ、相川音頭、鬼太鼓など舞等も観賞することが出来楽しいひとときをすごすことが出来ました。又懇親会では、各寺院の檀信徒の方々人間関係を深め合い心に残る思い出を多く作ることが出来ました。今後は各寺院の住職さんを始め、総代世話人さん檀信徒の方々を合せて、県内日蓮宗信徒結束と発展を期すと共に、各寺院の繁栄を御祈念申し上げ、終わりに各お上人のご厚情に深く感謝を申し上げます。

川越市妙昌寺檀徒

沼田 順造 さん



ご流罪の住時をしのぶ三昧堂

大聖人 彩の国紀行

第五回 最終回

児玉玉蓮寺



日蓮大聖人彩の国紀行の締め括りが、東光山玉蓮寺であります。寺号の由来は、児玉の「玉」と日蓮大聖人の「蓮」をとり、玉蓮寺にしたと言ひ伝えられており、毎年、大聖人の月遅れの命日である十一月十三日には、大聖人を偲び盛大に御会式行事（下写真）が執り行われっております。

さて、文応元年、大聖人御年三十九歳の時、国を憂いて、時の鎌倉幕府執権である北条時頼に提出された警告、諫暁の『立正安国論』を契機として大難四箇度、小難数知れずと言われるほどの迫害を受けた大聖人の生涯でございましたが、この四大法難の一つである佐渡流罪により佐渡ヶ島へおもむかれるとき（文永八年十月十三日）又、佐渡御赦免の砌（文永十一年二月十七日）の二回に渡り、大聖人に御館を献じお世話されたのが武蔵国の武蔵七党の一つである児玉党という地頭（武装団）の党首・児玉六右衛門三郎時国公（藤原氏）でございました。時国公は、その節、大聖人から法華経の偉大なるを聴受して、自ら法悦を悟り、後に、児玉党御館に速やかに建立されたのが、玉蓮寺であり、御足洗井戸、大聖人涅槃図、大曼荼羅御本尊（行方不明）等がございます。御館に御宿泊された大聖人を、現在の東村山市にある桑川（現在の久米川）まで守りお送り申し上げ、桑を久米として名乗るようにと氏姓を賜り、その子孫

が多数現存しております。また、児玉党は武装団で在りましたから、全国各地に土着している一族も多く、児玉姓をそのまま名乗り、全国からルーツを辿り、玉蓮寺にお詣りなされる方も多数ございます。現在の東京都赤坂（当時の武蔵国領地）の日蓮宗圓通寺には時国公の位牌が祀られ戦死の霊場と言われっております。大聖人の行かれたところに児玉姓在り。千葉県興津の妙覚寺に児玉姓の檀家、佐渡に五十数家の児玉姓の家が現存しております。



ともあれ、当時を考えてみると、武装団の護衛がなければ到底たどり着けなかったといわれる佐渡ヶ島に行き、法華経、諸天善神の御守護により生かされ鎌倉に戻られた、大聖人の命がけの御苦勞を考えると、大聖人の弟子、信徒である我々は、大聖人彩の国紀行を契機に、法華経に対してどう関わったらいかが各々自問自答してみるのが良いのではないでしょうか。

【執筆・玉蓮寺住職

阿部 是弘上人】



▽檀信徒さらには寺族の方々に寄稿して頂いた「信仰体験記」を掲載させて頂きました。紙面の関係上、全文掲載が出来ず、編集させて頂きましたことお詫び申し上げます。▽去る十一月八日、当会の副会長岸篤氏（川越妙昌寺）がご逝去なされました。永年にわたるご尽力に感謝申し上げます。尚、本葬儀には当会といたしまして生花を供え、岸昭夫会長が出席しお焼香、お題目を唱えさせて頂きました。